

前回は、一般的な住宅の地鎮祭についてご説明いたしました。

地鎮祭は、地の神様の大地主神と土地の氏神様の産土大神に供え物をして、工事に関わる皆様が、お施主様とご一緒に土地の穢れを祓い、工事の安全祈願をする最初の儀式です。

他にも、地鎮祭には別名起工式と呼ばれるいろいろな儀式がございますが、別の機会にご紹介することにして、今回は上棟式についてご説明申し上げます。

### ◆上棟式（一般住宅）

堂宮建築における上棟礼式につきましては、後ほどご説明申し上げますが、まず、一般住宅での上棟式について、略式にてご説明申し上げます。

最初にお断り申し上げますが、地鎮祭ではほとんどの場合、神職に斎主をお願いいたしますが、上棟式においては、昔から大工の棟梁が斎主を務めることがほとんどです。私が執り行います上棟式も、代々田子家に伝わった儀式でございます。式典の思いや内容は変わりますが、棟梁によって儀式の



## 通算 第18回 未来に伝えたい 日本建築伝統儀式

たごかずのり  
田子 和則  
棟梁 田子式規矩法大和流六代目

進行順序等が異なりますので、ご理解賜りたく存じます。

以前にも述べましたが、私が六代目を襲名いたしました時に、父（五代目 光一郎）から直筆の上棟式の祝詞を戴き、そして祝詞の読み方も教わりました。幣束の作り方や式典に必要な祝い道具の作り方、そして飾り付け等、詳しく伝授して頂きましたことを今でも鮮明に覚えております。この瞬間に棟梁としての最初の緊張感と責任の重さを自覚いたしました。また、この時の五代目棟梁の言葉と眼差しの鋭さには、言葉に表せない凄みを感じた次第です。

一言、『式典は邪念なく家を作る思いと、施主様の思いをしつ



五代目から伝授された上棟祝詞

り神に伝えるのが棟梁（斎主）の心得だ。中途半端な気持ちで上棟式典はしてはならぬ。良く覚えておきなさい』と教えて頂きました。私も棟梁として百回以上数多くの上棟式典の斎主を務めさせて頂きましたが、式典を重ねるごとに、お施主様とご縁と仕事の責任の重大さを感じる次第です。



上棟式祭壇

### ◆上棟の心得（請負業者）

1. 契約の時点にて、工程表提出の段階で地鎮祭および上棟式のおよその日にちを定め、施主様にお話し申し上げておき、工事の進行を確認の上、早めに六曜の吉日を選定し準備をすること。ただし、大安吉日であっても、三隣亡※の日にちの上棟式は控えるべきとされていきます。

2. 上棟式は昔からほとんどの家が行っておりましたが、最近ほ式典を行うことが少なくなりました。原因はなぜか良く分かりませんが、式典の執り行いを出来る棟梁が少なくなったのも原因の一つだと思います。人生に一度あるかないかの大事な神事ですので、きちんと上棟の意味をお話し申し上げるのが良いと思います。工事の大小にもよりますが、施主様のご意見ご希望により、時に応じて盛大にも質素にも、執り行うことが良いと思います。

3. 昔は、上棟式は施主様の親戚や友人、近所の方々（なわら）に手伝って頂き、直会（なわらい）の料理を作ったりして、工事に関わる職人さんを労う祝い



式典での槌打（つちうち）の儀

でもありました。そして、直会の場で棟梁や頭から上棟木遣り（きや）で祝うのが習わしでした。今でも盛大に行うこともありますが、一般的には簡略化されています。式典の内容を簡単に説明する際には、中でも散餅（さんぺい）・散銭（さんぜん）の儀があり、家ができる喜びを感謝の気持ちを含めて儀式に参加して頂くことが大切です。式典はきちんと行いますが、直会は仕出し屋さん（やさん）に料理をお願いして、料理の折と赤飯、そして車の方もいらっしやるので、二合瓶とお餅を付け、簡単に歓談して頂き、施主のご挨拶、業者の御礼のご挨拶、そして職方より祝い木遣りと乾杯を行い、少し歓談の後、締め木遣りまたは御礼のご挨拶で締めとお開きとなります。



上棟式での直会（なわらい）の様子



直会での上棟祝い木遣り

4. 家に関しましては、思うに、大半の人は自分の家を持ちたいと思いい、家族のために働いて、目途が立つと銀行から借入してまでも計画を立て、家族のために家を建てようとしています。いわば、人生最大の買い物というか、夢・希望であると思います。

人生一日のうち8時間仕事をし、様々な時間を8時間過ごし、そして8時間は家で寝る。家の役割は雨、風を凌ぐだけでなく、住む人全員を見守り、健康は勿論のこと家族の絆を作ることです。

大切な家が大勢の皆さんのお陰で建てられるわけでありまして、そして、上棟は家の柱を始めとす

る構造物が組み立てられ、最後に屋根の一番高いところに棟が上がります。これが上棟です。

上棟では棟の前に壇場を設け、棟梁が棟木の中央に半紙を巻き、水草を添えて麻で結わうのが正式です。そして、その場所に幣束を一本打ち付ける。この幣束を神幣（しんぺい）といいますが、そして、手前の壇場へは三幣（さんぺい）を安置して供物（くもつ）を供え、祭壇飾りをして棟梁がこの家が永く久しく栄えますように神々に祈ります。

そして、お施主様は上棟を迎えたことに感謝し、請負業者を始めとする職方に感謝し、家ができるまで安全に気を付けて頂き、より良い技術を発揮して頂けるように完成までお願い申し上げ、上棟式が出来ましたことを、今までお世話になった親戚を始めとする近所の方々、職場の関係者や友人に対して感謝申し上げます。

上棟式は人生の中で大事な慶事（けいじ）であると私は思います。建築主、請負業者が心一つになり祝う儀式、安全祈願であると思います。

今回は住宅上棟式の例を式次第に則り、詳しく説明させて頂きま

## ◆上棟式（一般住宅）

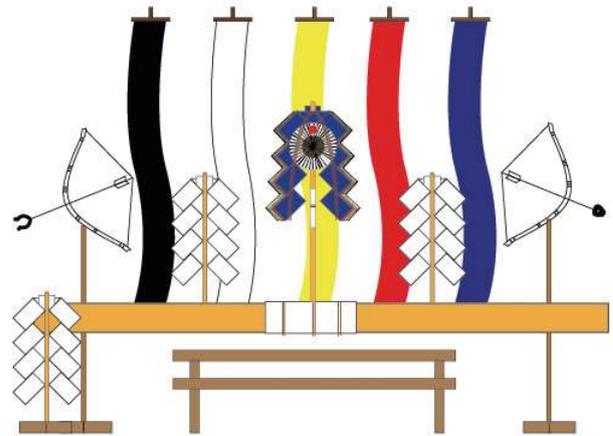
前回は、一般住宅の上棟式の心得と、お施主様の家に対する思いを、簡単に述べさせていただきました。今回は、私が住宅の上棟の儀式を行う場合の、ごく一般的な祭壇と、祝い道具の作り方を簡単にご説明申し上げます。

上棟式の式典を屋根の壇場だんばで行いますと、お施主様に高いところまで上がっていただくこととなり、危険が伴いますし、準備に時間と手間がかかりますので、最近では、一階の式典に相応しい場所を選定して、仮棟と祭壇かざわを設け、天候にも左右されない安全な場所で行うようにしております。そして、主たる上棟神事を、お施主様を始めとするご家族、ご親戚、そして、友人、工事関係者等が一堂に会して、式典に参加して頂き、散餅・散銭さんぺいさんぜんの儀式は、斎主（棟梁）、脇棟梁、大工さんを中心とし、可能であれば施主代表の方にも、安全な壇場が上がっていただき、感謝の気持ちを込めて、お餅とお金を撒いて頂く場合もございます。そして、すべての上棟式典が終了



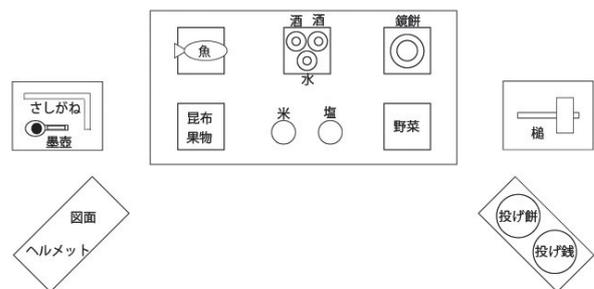
# 未来に伝えたい 通算 第19回 日本建築伝統儀式

たごかずのり  
田子 和則  
田子式規矩法大和流六代目 棟梁



した後、本来の屋根の棟の中心に、三幣の中央にある神璽幣しんじへいと棟札むねふだを取り付けて、式典は終了いたします。

私共では、20年ほど前より、この方法にて上棟式を行っております。お施主様には祝詞のりとを始めとするすべての儀式について納得していただき、大変喜んでいただいております。『大変良い記念になりました。自分の家を持つ大事さを、改めて認識させていただきました。ご丁寧ありがとうございました。お施主様から毎回のようにご挨拶を賜ります。そして、



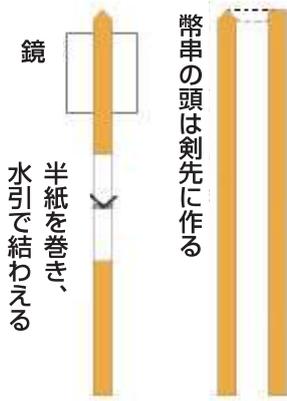
(図1) 上棟式祭壇と供え物配置の例

私からは『今日は上棟式、誠に御めどうございます』と、この言葉が自然に発せられます。

## ◆祭壇の飾りつけと祝い道具の作り方

### 1. 幣束へいそくの作り方 (図2)

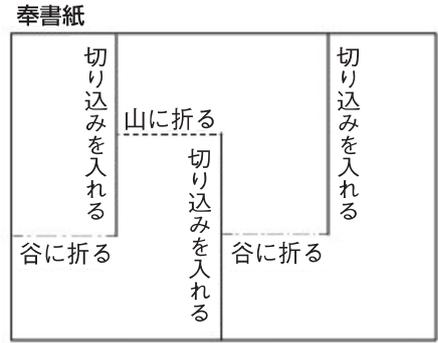
まず、祭壇の両脇に置く幣束の作り方ですが、奉書紙を二枚重ねにし、四等分して、図のように三分の一を残し切り込みを入れて折り曲げます。この時に最初の頭の部分だけ少し広めにとると、幣束がバランスよく見えます。



(図3) 幣串

幣串の長さは、脇幣束は三尺六寸（109センチ）中央の神聖幣串は四尺八寸（145.5センチ）としています。この長さは、規矩術で勉強した吉寸法※の一尺二寸を基準として、その三倍数、四倍数としています。幣串の頭は剣先にして、鏡を挟むためにのこぎり目を入れておきます。

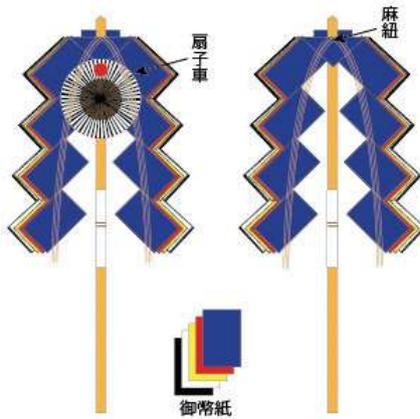
## 2. 幣串の作り方 (図3)



(図2) 幣束の作り方

中央に神聖幣を置き、脇幣束との三本のバランスを、感覚と高さから良く見て配置します。私の場合は、祭壇の飾り付けのバランス

## 4. 幣串たて台 (図5)



(図4) 神聖幣

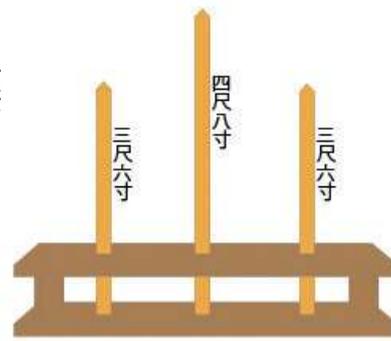
神聖幣串は四尺八寸で作られ、祭壇の中央に祀ります。そして、鏡下に扇子車を取り付け、扇子車の下の幣串には、半紙を巻き、水引で結びます。さらに、その下の幣串には、住宅の場合ですと『祝上棟 ○○家』と書き記し、幣串の裏には請負会社の名前と年月日を記入しておきます。幣束の色の順番は図4のようになります。また、関西では扇子車の中央に、お多福の面を付ける場合もあります。

## 3. 神聖幣の作り方 (図4)

を考慮して台の寸法を決めておきますので、寸法の決まりはなく、写真を参考にしてください。また、この三本の幣束とは別に、私の場合は振幣束（おおぬさ）の代わりにして、更に一本の幣束を用意してあります。

棟木の中央に白紙を巻き、水草を添えて麻で結わえるのが正式ですが、白紙を麻のみで結わえても良しとしています。三本の幣束は三玉女星神（さんぎょくじよせいじん）を象ったもので、中央に天八意思兼命（あめのやごころおもいかねのみこと）、左右には手置帆負命（たおきほういのみこと）、彦狭知命（ひこさちのみこと）を祀ります。

## 5. 棟結び (図6)



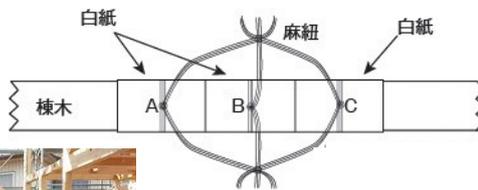
(図5) 幣串たて台

棟結びも図のように白紙三枚、結わい三か所、そして棟札を奉納して上棟式終了後、中央の神聖幣と棟札を家の棟の中央に結わえ付け、家の守り神として奉納いたします。

今回は式次第に則り、実際の上棟式の進め方について、ご説明申し上げます。



上棟式祭壇の実例



(図6) 棟結び

## ◆ 棟梁が行う実際の 上棟式（一般住宅）

田子家歴代の棟梁に伝わる上棟式ですので、地方により、また伝授して頂く棟梁により、目的は一緒でも多少式典の順序ややり方は異なりますことを最初にお断りいたしておきます。

まずは田子家に伝わる上棟式の次第に則り、ご説明申し上げます。

### 1. 身曾貴大祓

まずは祭壇の脇上に仮棟を設け、棟木の中心を白紙で巻き、前回説明いたしましたように、棟縛りを三幣に順次三ヶ所、麻で結びつけます。そして三幣の祭神は、真ん中に『天八意思兼命（あめのやごころおもいかねのみこと）』、右に『手置帆負命（たおきほういのみこと）』、左に『彦狭知命（ひこさちのみこと）』、そしてこの外に『三玉女星神（さんぎよくじよせいじん）』を祀ります。三幣の前に祭壇及び机を設け、三幣の右に棟打ちの槌を置き、左に指金・墨つぼを置く。そして神饌物は、塩・米・水・酒・昆布・魚・野菜・



# 未来に伝えたい 通算 第20回 日本建築伝統儀式

田子式規矩法大和流六代目 棟梁 田子 和則

季節の果物・鏡餅などで、鏡餅は本式に備えると三重に作るのが本来ですが、最近は略式で二重ねにしています。他に三才餅・五行餅・七曜餅等がありますが、最近では省略します。投げ餅、投げ銭は感謝の意を込め祭壇机に奉納した上で、棟梁がお酒・お水の蓋を取り棟縛り三か所に塩・米・水・酒を供え身曾貴大祓を奏上します。



身曾貴大祓（みそぎおおはらい）

### 2. 四方固めの儀

祭壇に奉納してある、唐櫃（切麻散米）と振幣束（大麻）により、棟梁と脇棟梁が協力して四方を固めます。最初に棟梁が切麻散米をした後に、脇棟梁から振幣束を受け取り、棟梁が大きく『水』

という字を書くように振幣束を振り、四隅に対して祓い言葉「一切成就祓給清給」と唱えて固める、棟梁ならではの儀式であります。



四方固めの儀（切麻散米）

### 3. 祝詞奏上

第18回の中でお話申し上げた通り、田子家代々の棟梁から伝承された祝詞を五代目棟梁が直筆で書き、私が六代目を継ぐときの儀式の中のひとつとしてその祝詞を頂き、上棟式棟梁として斎主を務める心構えを厳しく伝えて頂きました。お陰様で、お施主様からは「古式に則った儀式を有難うございました」と、お礼を頂きます。五代目棟梁（父）から伝授頂いたことを、しみじみと感謝いたしております。

上棟式の斎主を務めます時は、

上棟を迎えたお施主様の家が永く  
 久しく、安らげくおぼやかに栄え  
 ますように、心を込め奏上させて  
 いただきます。



祝詞奏上

### 3. 槌打ちの儀 (棟堅め)

槌打ちの儀は棟梁が声高らかに  
 掛け声をかけて、脇棟梁が  
 『應』と応え、小声で『土金』  
 と唱え一つ打つ、これを三つ打  
 つのが通常の槌打ちの儀です。  
 私はこの槌打ちの儀と合わ  
 せ、棟梁の寿ぎ唄を奉納してか  
 ら運動して槌打ちの儀に入りま  
 す。

〈宮大工の寿ぎ唄〉  
 『千木直ぐに、  
 鯉木直ぐに打つ、  
 この槌は  
 永遠に寿ぐ常盤堅盤に』

と扇子をかざし唄いを入れま  
 す。そのあとに運動して槌打の  
 儀を行います。

〈一般的な掛け声〉  
 一の槌 『千歳楽』  
 二の槌 『万歳楽』  
 三の槌 『永遠とう』

〈田子流(唄いの後)〉  
 一の槌 『寿命長運とう』  
 二の槌 『福徳円満自在とう』  
 三の槌 『天長持久とう』

と唱えます。これは地方の棟  
 梁により異なります。



槌打ちの儀



寿(ことほ)ぎ唄

### 4. 散餅・散銭の儀

散餅も地方によってお餅の形が  
 違います。私は群馬の前橋出身で  
 すが四角の切り餅で、祭壇への供  
 え餅は別に三才餅、五行餅、七曜  
 餅とするのが本式ですが、最近の  
 住宅上棟の場合は略式で、供え餅  
 は二段重ね、撒き餅は切り餅を三  
 枚重ねて藁で縛ってあり、それを  
 投げます。また東京・関西などは  
 丸餅を投げます。

最初に三幣の祭神に納めた、三  
 組のおもちを施主の奥様に箕で受  
 けて頂きます。  
 これは奥様が留守をしつかりと  
 守り、火事にしないようにという  
 意味です。

〈棟梁の投げ餅唱え言葉〉  
 『水におぼれず 火にやけず  
 七難そく滅し給うと申す』



散餅(なげもち)

棟梁が唱えて箕に一つ一つ投げ  
 入れます。

### 5. 散銭の儀

これは5円硬貨を半紙でおひね  
 りにして、たくさん作り、投げま  
 す。皆様のご協力のお陰様で家  
 を建てることができました。あり  
 がとう御座います。と感謝の気持  
 ちで棟梁の唱え言葉の後、棟梁と  
 登壇しております皆さんで一斉に  
 お餅と一緒に投げます。最近はお  
 子様に喜ばれるスナック菓子も投  
 げるようです。

〈棟梁の投げ銭感謝の唱え言葉〉  
 『金銭 銀銭  
 まこうど まこうど  
 なを利徳 聞こえけん』

散餅・散銭の儀が終了致します  
 と、上棟式がすべて終了し、直会  
 となります。



散餅(なげもち)